

学士課程における「英語プログラム」の入学者選抜方法の実態

——外国学歴・資格評価 (Foreign Credential Evaluation: FCE) の必要性を探る——

翁 文静, 立脇 洋介 (九州大学), 宮本 友弘 (東北大学) ¹⁾

本稿は外国人留学生向けの「英語プログラム」の選抜方法の実態と特徴を明らかにした上、日本における「外国学歴・資格評価」(Foreign Credential Evaluation: FCE) の必要性を探った。「英語プログラム」を実施している 32 大学計 78 の選抜形態を対象に、その実態を調べた。その結果、(1) 大学独自の学力試験を課す選抜形態は少なかった、(2) 英語資格・検定試験スコアに関しては、提出と基準点の設定を組み合わせた選抜形態がほとんどであった、(3) 各国の学力試験に関しては、79 種類の学力試験のうち、19 種類が多く活用され、基準点が設定されず、提出のみという活用方法が多かった。また、各国の学力試験のうち利用頻度の高いものでは、FCE の必要性があると考察した。

キーワード：外国人留学生、英語プログラム、選抜方法、FCE、募集要項

1はじめに

文部科学省 (2008, 2017) は、留学生 30 万人という目標を掲げ、優秀な留学生を受け入れるために、入学者選抜の在り方が重要と報告している。具体的には、各国の既存の資格、GPA や英語資格・検定試験を活用した入学者選抜を推進すべきとしている。しかし、各大学の外国人留学生向けの入学者選抜、特に各国の既存の資格の利用の実態等については、明らかにされていない。

1.1 外国人留学生の選抜方法の実態について

学士課程における留学生向けの入学者選抜は主に、日本語による私費外国人留学生選抜 (4 月入学)、及び英語による学位取得が可能なプログラムにおける選抜 (以下「英語プログラム」²⁾) という 2 種類がある。

私費外国人留学生選抜 (4 月入学) の実態に関して、江淵 (1990) は日本留学試験 (EJU) 導入前である 1987 年度の段階で、日本の大学における留学生の受け入れに関する実態調査を行った。選抜の具体的な方法に関して、江淵は、主に「面接試験」「学力試験 (筆記試験)」「書類選考」の三つの方法があり、国立、公立、私立大学のいずれにおいても「面接試験」と「学力試験 (筆記試験)」が選考方法の中心となっていることを指摘した。

翁・立脇 (2021) は 2019 年度に各国立大学が公開した募集要項をもとに、留学生向けの選抜方法の実態について調べた。その結果、(1) ほぼ全ての入試区分で EJU が利用されており、加えて英語資格・検定試験のスコアの提出を求める入試区分も半数ほどを占

めていた、(2) 各大学の行う独自の選考方法としては、面接、小論文、学力試験があり、9 割ほどが面接を課していたことが分かった。また、翁・立脇 (2022) は 2019 年に発生した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関する国立大学の対応を明らかにするため、2020 年度及び 2021 年度の各国立大学が公開した私費外国人留学生選抜 (4 月入学) の募集要項を比較した。その結果、多くの国立大学が 2020 年度と同じように 2021 年度の私費外国人留学生選抜を実施していたことがわかった。

これらの先行研究より、私費外国人留学生選抜 (4 月入学) において、大学独自の試験としては、面接、筆記試験、書類選考などが用いられていたこと、また、近年では、日本語を含む EJU と英語資格・検定試験を同時に利用することが示された。

一方、学士課程における「英語プログラム」の選抜方法の実態に関する研究として、堀内 (2018) がある。堀内は 2014 年から 2015 年の 20 大学 39 プログラムの「入試要項」から、「英語プログラム」への海外からの受験のしやすさについて検討した。堀内は選考方法について、(1) 各大学とも渡日前入学許可を出すことを基本として、書類選考に準ずる形で設計されており、概ね 6 つの共通書類 (高校の卒業・見込証明書、高校の成績証明書、TOEFL など英語資格・検定試験のスコア、各国の学力試験のスコア、志望理由などを書いた英文エッセイ、推薦状) の提出を求めていること、(2) 面接を課す大学は 20 大学中 13 大学と半数以上であり、うち 2 大学は筆記試験も課していること、(3) EJU を統一試験のスコアとして認めて

いる大学は半数であることを示した。

以上の通り、堀内（2018）は「英語プログラム」での共通提出書類の種類について調べたが、具体的にどの書類がどのように課されていたのか、また、各種試験の基準点の設定の有無に関しては明らかにされていない。

1.2 FCE とその活用実態に関する研究調査

堀内（2018）が示したように、「英語プログラム」の選抜では各国の学力試験のスコアが活用されている。しかし、異なる学力試験のスコアを選抜で利用する際には、どのようにスコアを比較評価するかという問題が生じる。「外国学歴・資格評価」（Foreign Credential Evaluation, 以下 FCE）という視点がこの問題を解決する一つの鍵となっている。

FCE とは、「外国で発行された学業成績証明書、学位・卒業証明書、各種資格証明書等について、その所持者を受入れようとする国の大学や評価機関において、当該国の教育制度や資格制度の下では、どの段階や評定（学業成績の場合）にあたるか（接続性）、あるいはどの資格と同等であるか（同等性）を評価すること」（太田，2008）と定義される。芦沢ほか（2013）は、欧米においては、歴史的に留学生や移民を多く受け入れてきたこともあり、また、大学入学選抜では書類審査が主な選抜方法であることから、FCE の役割が重視され、発展してきたと述べている。一方、日本においては、FCE の認識・手法が根付いておらず、FCE を実施する公的機関は存在せず、歴史的に見ても、大学が FCE を専門の外部機関に委託するなどの措置が取られていないと指摘している。

FCE の活用実態に関する調査としては、芦沢ほか（2013）と大学評価・学位授与機構（2016）がある。芦沢ほか（2013）は「国際化拠点整備事業（グローバル 30）」以前の日本の FCE は、「証明書の真偽性の確認」及び「修学年数の確認」に集中し、「出願（受験）資格有無の確認」が大学（学部と大学院を含む）の主な目的であったことを述べた。また、芦沢ほかは、FCE が必要とされていない理由として、大学で独自の入学試験を課しているため、海外での成績や学修内容などを審査する必要はなかったこと、留学生の 6 割近くが中国の出身者であるため、中国の学歴関係証明書に関する審査を行える体制さえ確保できれば、それ以外の国々からの志願者に対応するための FCE を発展させる必要性はなかったと考察した。

大学評価・学位授与機構（2016）は、2014 年に、日本国内の全大学を対象に、外国での学習履歴に基づ

く入学資格審査及び単位認証の実施状況に関するアンケート調査を実施し、以下の結果が得られた。第一に、多くの大学では出願資格の有無判断が出願者の最終学歴と修学年数に拠って行われていた。第二に、外国教育機関での成績評価を合否判定の外国教育機関での成績評価を合否判定の対象外とする大学の割合が高かった（学士課程 8 割、大学院課程 7 割ほど）。

先行研究から、各大学は出願資格の有無判断が最も多く行われており、諸外国の成績評価を合否判定の対象とすることがそれほど行われていないこと、大学独自の入学試験を課し、中国の出身者が半数以上占める入学選抜においては、FCE が必要とされていないことなどが確認できた。しかし、先行研究では、調査の対象は学部と大学院、私費外国人留学生選抜（4 月入学）と「英語プログラム」が混在しており、「英語プログラム」における選抜方法の実態は明らかにされていない。

1.3 目的

本稿では、「英語プログラム」に着目し、私費外国人留学生選抜（4 月入学）との比較を念頭に置きつつ、「英語プログラム」の選抜方法の実態と特徴を明らかにしたい。そのうえで、「英語プログラム」における FCE の必要性について探りたい。

2 調査方法

堀内（2016）が指摘したように、「英語プログラム」がどの大学に存在しているのか、国レベルで整理された包括的なデータや情報サイトなどが存在しない。そのため、本研究は堀内の調査方法を参考に、既存の「英語プログラム」をまとめたリストを用いて、各大学が公開する最新年度（2022 年度）の募集要項及び Q&A やコロナによる変更といった募集要項に関する補足や追加情報を掲載したウェブサイト調査対象とした。以降では、そうしたウェブサイトの補足・追加情報を含めて募集要項と表記する。使用した 3 つのリストは下記の通りである。

(1) 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室の「令和元年度の大学における教育内容等の改革状況について（概要）」に掲載されている『「英語による授業」のみで卒業できる（学科等がある）学部（45 大学 90 学部）」（文部科学省，2021）

(2) 日本学生支援機構（JASSO）の「University Degree Courses Offered in English」（51 大学 100 学部）（日本学生支援機構，2021）

(3) アジア学生文化協会とベネッセコーポレーシ

ョンが共同運営するウェブサイト「JAPAN STUDY SUPPORT」に掲載されている「英語で学べる大学（一覧）」（17 大学 36 学部）

これらのリストに掲載されている大学のうち、32 大学が公開している 52 の募集要項を収集した。収集した募集要項の記載事項から、以下の 3 つの項目について調べた。

- ①選抜資料：合否判定にかかわる選抜資料として何を課しているか。
- ②英語資格・検定試験の活用状況：出願要件として、TOEIC や TOEFL などの各種英語資格・検定試験がスコア提出の「対象」か「対象外」か、対象となっていた場合には、「基準点」があるか、「その他（任意・個別相談）」の活用方法も調べた。
- ③各国の学力試験の活用状況：出願要件として、ACT や IB などの各国の学力試験がスコア提出の「対象」か「対象外」か、対象となっていた場合には、「基準点」や「教科指定」があるか、「その他（任意・個別相談）」の活用方法についても調べた。

なお、①選抜資料と②英語資格・検定試験の活用状況の項目は私費外国人留学生入試（4 月入学）」と比較するために設定したが、③は「英語プログラム」の特性を考慮し、新しく設けた項目である。

同一の大学や学部・学科等であっても、選抜方法に相違が見られたため、以下の選抜形態を分析単位とした。同一の大学の複数の学部・学科等で同様の選抜方法の場合は、1 つの選抜形態とした。同じ学部・学科等でも選抜方法が異なる場合は、複数の選抜形態としてカウントした。最終的に、32 大学の 78 の選抜形態数の結果を集計した。

3 結果と考察

3.1 選抜資料

選抜資料の結果は下記の通り（表 1）であった。合

否判定にかかわる選抜資料は、書類、面接、大学による学力試験、小論文、出身校概要、推薦書、英語資格・検定試験のスコア、学力試験スコア、の 8 種類がみられた。

全 78 の選抜形態で英語資格・検定試験のスコアと学力試験スコアの提出が課されていた。次に利用されていたのが書類（98.7%）、小論文（84.6%）、面接と推薦書（それぞれ 61.5%）であった。一方、大学による学力試験と出身校概要の利用率はいずれもわずか 12.8%であった。

選抜資料について、私費外国人留学生選抜（4 月入学）と「英語プログラム」の違いは、私費外国人留学生選抜（4 月入学）では日本国内で行われる大学独自の学力試験が多く利用されていたのに対し、「英語プログラム」では、その利用率は低く、代わりに、英語試験と各国の学力試験のスコアの提出を求めている。つまり、「英語プログラム」の特徴の一つは、出願者の学力を判断する主な材料は、英語資格・検定試験と各国の学力試験であることが言える。

3.2 英語資格・検定試験の活用状況

全 78 選抜形態で計 44 種類の英語資格・検定試験が対象となっており、各選抜形態で平均 7 種類を対象としていた（表 2）。IELTS Academic Module と TOEFL iBT の 2 種類の英語資格・検定試験は、特に活用が集中していた（それぞれ 98.7%）。次に多く対象とされていたのは TOEFL iBT Special Home Edition and Home Edition（61.5%）であった。残りの 41 種類の英語資格・検定試験を対象としていたのは、40% 以下であった。スコアを提出する場合、大半で基準点が設定されていた。

私費外国人留学生選抜（4 月入学）でも、「英語プログラム」と同様に、TOEFL iBT, TOEIC Listening & Reading Test, IELTS Academic Module の 3 種類の

表 1 英語プログラム入学者選抜の選考概要

	課す			不明	課さない
	必須	その他 (注2)	計		
書類	98.7%	0.0%	98.7%	1.3%	0.0%
面接	61.5%	14.1%	75.6%	0.0%	24.4%
大学による学力試験	12.8%	0.0%	12.8%	0.0%	87.2%
小論文（注1）	84.6%	0.0%	84.6%	0.0%	15.4%
出身校概要	12.8%	2.6%	15.4%	0.0%	84.6%
推薦書	61.5%	1.3%	62.8%	0.0%	37.2%
英語試験スコア	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
学力試験スコア	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

注1) 一定の分量を書かせる課題であり、学力を問うものから志望動機までのものがある。

注2) その他としては「オプション」「必要に応じて実施」がある。

表2 英語プログラム入学者選抜における英語試験の活用状況

試験名	対象				対象外
	スコア提出	(うち基準スコア)	その他(任意・相談)	計	
IELTS (Academic Module)	98.7%	(75.6%)	0.0%	98.7%	1.3%
TOEFL iBT	98.7%	(75.6%)	0.0%	98.7%	1.3%
TOEFL iBT Special Home Edition and Home Edition	61.5%	(30.8%)	0.0%	61.5%	38.5%
TOEIC Listening&Reading	35.9%	(24.4%)	0.0%	35.9%	64.1%
Cambridge English (CAE,CPE)	33.3%	(32.1%)	0.0%	33.3%	66.7%
Duolingo English Test	25.6%	(23.1%)	0.0%	25.6%	74.4%
IELTS Indicator	23.1%	(10.3%)	0.0%	23.1%	76.9%
ACT	19.2%	(17.9%)	1.3%	20.5%	79.5%
IB English	19.2%	(16.7%)	1.3%	20.5%	79.5%
SAT	19.2%	(17.9%)	1.3%	20.5%	79.5%
Pearson English Language Test (PTE Academic)	19.2%	(19.2%)	0.0%	19.2%	80.8%
EIKEN STEP/EIKEN CBT/EIKEN S-CBT/EIKEN S-Interview	17.9%	(12.8%)	0.0%	17.9%	82.1%
GCE A/AS level English	16.7%	(15.4%)	1.3%	17.9%	82.1%
TOEIC Speaking & Writing Tests	16.7%	(11.5%)	0.0%	16.7%	83.3%
AP	14.1%	(14.1%)	1.3%	15.4%	84.6%
Australian State or Territory High School Certificate* Examination- Grade 12 English	15.4%	(14.1%)	0.0%	15.4%	84.6%
Canadian Grade 12 courses	15.4%	(14.1%)	0.0%	15.4%	84.6%
European Baccalaureate (EP Diploma) English	15.4%	(14.1%)	0.0%	15.4%	84.6%
Hong Kong HKALE , HKDSE	15.4%	(15.4%)	0.0%	15.4%	84.6%
IGCSE/GCSE/GCE O-Level English	15.4%	(15.4%)	0.0%	15.4%	84.6%
TOEFL iBT Paper-delivered Test	15.4%	(14.1%)	0.0%	15.4%	84.6%
National Certificate of Educational Achievement (NCEA)	14.1%	(14.1%)	0.0%	14.1%	85.9%
Scottish Certificate of Education Standard and High Grade English (UK)	14.1%	(14.1%)	0.0%	14.1%	85.9%
Taiwan General English Proficiency Test (GEPT)	14.1%	(14.1%)	0.0%	14.1%	85.9%
Common European Framework of Reference for Languages: CEFR	12.8%	(12.8%)	0.0%	12.8%	87.2%
Examination for the Certificate of Proficiency in English (ECPE)	12.8%	(12.8%)	0.0%	12.8%	87.2%
Malaysian University English Test (MUET)	12.8%	(12.8%)	0.0%	12.8%	87.2%
SPM English Language 1119	12.8%	(12.8%)	0.0%	12.8%	87.2%
TEPS (Korea)	12.8%	(12.8%)	0.0%	12.8%	87.2%
GTEC CBT type/GTEC Advanced※ ※※GTEC official score certificate (4-skill version)	11.5%	(10.3%)	0.0%	11.5%	88.5%
TEAP	11.5%	(10.3%)	0.0%	11.5%	88.5%
TOEFL PBT	11.5%	(9.0%)	0.0%	11.5%	88.5%
TEAP CBT	10.3%	(9.0%)	0.0%	10.3%	89.7%
TOEFL ITP Plus for China Solution.	10.3%	(0.0%)	0.0%	10.3%	89.7%
Computer-delivered IELTS (CD IELTS)	5.1%	(3.8%)	0.0%	5.1%	94.9%
Cambridge ESOL Examinations	3.8%	(1.3%)	0.0%	3.8%	96.2%
GCSE(General Certificate of Secondary Education)	2.6%	(1.3%)	0.0%	2.6%	97.4%
India	1.3%	(1.3%)	0.0%	1.3%	98.7%
Irish Leaving Certificate Ordinary Level or High Level	1.3%	(1.3%)	0.0%	1.3%	98.7%
Kenya Certificate of Secondary Education (KCSE)	1.3%	(1.3%)	0.0%	1.3%	98.7%
Malaysia SPM O level English	1.3%	(1.3%)	0.0%	1.3%	98.7%
Philippines	1.3%	(1.3%)	0.0%	1.3%	98.7%
Trinity ISE Exams	1.3%	(1.3%)	0.0%	1.3%	98.7%
West African Examinations Council (WAEC) Senior School Certificate	1.3%	(1.3%)	0.0%	1.3%	98.7%

利用が多かった。しかし、基準点の設定に関して、私費外国人留学生選抜（4月入学）では17%と少なかったのに対して、「英語プログラム」では基準点を設定していた選抜形態がほとんどであった。

3.3 各国の学力試験の活用状況

全78選抜形態で計79種類の学力試験が対象となっており、各選抜形態で平均19種類が対象となっていた（表3）。50%以上の学力試験は7種類であった。EJUを除く6種類の学力試験は世界的に利用頻度が高い欧米の試験であった。また、利用率20%から50%までの学力試験は全部で12種類であった。これらの学力試験はほとんど日本と同じアジアにある国と

地域のものであった。基準点を見てみると、ほとんどの学力試験で基準点が設定されていなかった。一方、教科指定に関しては、IB、GCE A/AS level、EJUでは40%以上で指定されていた。以上の結果をまとめると、「英語プログラム」においては、学力試験のうち、19種類が多く大学の対象とされており、一部で教科指定がなされているものの、基準点はほとんど設定されていないことがわかった。

「英語プログラム」においては、計79種類の学力試験が対象とされているが、そのほとんどで基準点が設定されていない。公式な各国の学力試験の換算表・基準がないため、単純に比較、換算することができず、あるいは、大学内部に換算表・基準があっても、1大

表3 英語プログラム入学者選抜における各国の学力試験の活用状況

試験名	国	対象				計	対象外
		スコア提出	(うち基準スコア)	(うち教科指定)	その他(任意・相談)		
IB	イングランド	89.7%	(1.3%)	(48.7%)	10.3%	100.0%	0.0%
GCE A/AS level	イングランド	83.3%	(1.3%)	(41.0%)	11.5%	94.9%	5.1%
Germany Abitur	ドイツ	76.9%	(2.6%)	(5.1%)	11.5%	88.5%	11.5%
ACT	アメリカ	67.9%	(1.3%)	(14.1%)	19.2%	87.2%	12.8%
France Baccalaureate	フランス	62.8%	(2.6%)	(3.8%)	24.4%	87.2%	12.8%
SAT Reasoning	アメリカ	61.5%	(1.3%)	(15.4%)	21.8%	83.3%	16.7%
EJU	日本	53.8%	(0.0%)	(41.0%)	7.7%	61.5%	38.5%
Korea CSAT	韓国	35.9%	(3.8%)	(7.7%)	23.1%	59.0%	41.0%
AP (Advanced Placement Tests)	アメリカ	35.9%	(0.0%)	(28.2%)	10.3%	46.2%	53.8%
China GAOKAO	中国	34.6%	(0.0%)	(5.1%)	23.1%	57.7%	42.3%
Taiwan GSAT	台湾	30.8%	(0.0%)	(10.3%)	23.1%	53.8%	46.2%
Malaysia STPM	マレーシア	30.8%	(2.6%)	(5.1%)	21.8%	52.6%	47.4%
Hong Kong HKALE, HKDSE	香港	28.2%	(2.6%)	(9.0%)	23.1%	51.3%	48.7%
Malaysia UEC	マレーシア	24.4%	(2.6%)	(5.1%)	21.8%	46.2%	53.8%
IAL	イングランド	24.4%	(0.0%)	(20.5%)	3.8%	28.2%	71.8%
SAT Subject	アメリカ	23.1%	(0.0%)	(14.1%)	7.7%	30.8%	69.2%
Singapore Singapore-Cambridge GCE (Advanced Level) Examination	シンガポール	21.8%	(2.6%)	(9.0%)	23.1%	44.9%	55.1%
Thailand O-net	タイ	21.8%	(0.0%)	(3.8%)	10.3%	32.1%	67.9%
New Zealand NCEA	ニュージーランド	21.8%	(15.4%)	(0.0%)	5.1%	26.9%	73.1%
Australia HSC	オーストラリア	19.2%	(2.6%)	(1.3%)	3.8%	23.1%	76.9%
Canada (National standardized test)	カナダ	17.9%	(2.6%)	(1.3%)	3.8%	21.8%	78.2%
Vietnam Vietnam National High School Graduation Examination	ベトナム	16.7%	(0.0%)	(3.8%)	21.8%	38.5%	61.5%
AP Minimum Requirement	アメリカ	16.7%	(16.7%)	(0.0%)	3.8%	20.5%	79.5%
Thailand GAT/PAT	タイ	12.8%	(0.0%)	(2.6%)	17.9%	30.8%	69.2%
GCE A/AS level Minimum Requirement	イングランド	12.8%	(12.8%)	(0.0%)	3.8%	16.7%	83.3%
Taiwan AST (Advanced Subjects Test)	台湾	12.8%	(0.0%)	(3.8%)	3.8%	16.7%	83.3%
India CBSE	インド	11.5%	(2.6%)	(2.6%)	21.8%	33.3%	66.7%
Vietnam University Enrolling Examination (UEE)	ベトナム	11.5%	(0.0%)	(2.6%)	16.7%	28.2%	71.8%
Indonesia National Examination	インドネシア	11.5%	(0.0%)	(0.0%)	10.3%	21.8%	78.2%
India CISCE	インド	11.5%	(0.0%)	(2.6%)	9.0%	20.5%	79.5%
India state examination boards	インド	10.3%	(0.0%)	(1.3%)	16.7%	26.9%	73.1%

学の志願者数に鑑みた場合、統計的に裏付けられた換算表・基準表かどうかは疑問が残り、各大学はやむを得ず各国の学力試験（基準点を設定せず）だけを求めていたと推測できる。政府主導の FCE 機関を設置し、FCE 機関でまとめたデータが蓄積でき、各国の学力試験の結果を評価、換算する共通尺度を作ることが可能になる。その結果、各大学も基準スコアを提示し、求める学生を募集しやすくなることが期待される。

4 まとめ

「英語プログラム」の選抜では、①大学独自の学力試験を課す選抜形態は少なかったこと、②英語資格・検定試験スコアの提出と基準点の設定を組み合わせた選抜形態がほとんどであったこと、③各国の 79 種類の学力試験のうち、19 種類が多く活用され、基準点が設定されず、提出のみという活用方法が多かったこと、を明らかにした。

大学独自の学力試験の代わりに各国の学力試験を活用している「英語プログラム」の選抜では、質の高い留学生獲得のために FCE の確立が有効と考えられる。現状では 79 種類もの学力試験が利用されており、全てを対象とするのは難しい。しかし、利用頻度の高い試験なら、統計的な解析に必要な量のデータ（受験者、合格者の得点）を収集しやすく、大学のニーズも高く、FCE の最初のステップとしてふさわしいと考えられる。

本研究の限界は、データの収集と調査結果の分析は多大な労力や時間を要するため、先行文献である 2020 年度の私費外国人留学生入試と 2022 年度の「英語プログラム」の募集要項を比較したところである。今後は追跡調査を行い、同年度の募集要項を比較したい。また、今後は、入試担当者や留学生へのアンケート調査など、「英語プログラム」の選抜方法の実態と FCE の必要性について、異なる観点から検証を行う必要がある。

注

- 1) 本論文の作成にあたって、第 1 著者は計画立案・データ収集ならびに本文の執筆を、第 2、第 3 著者は全体監修・分析と考察を分担した。
- 2) 本稿で用いる「英語プログラム」は、嶋内 (2016) の定義を参考にし、「入学・卒業要件としての日本語能力や日本語による授業の履修義務がなく、英語による授業科目を履修し、学士学位取得が可能なプログラム」と定義する。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP21H04409 の助成を受けたものである。

参考文献

- アジア学生文化協会・ベネッセコーポレーション (n.d). “JAPAN STUDY SUPPORT”
<https://www.jpss.jp/ja/univ/english/> (2022年3月17日).
- 芦沢真吾・太田浩・黒田千晴 (2013). 「第7章 日中韓における成績・学位・資格評価と地域的連携」黒田一雄編『アジアの高等教育ガバナンス』勁草書房, 172-199.
- 大学評価・学位授与機構 (2016). 『学生移動 (モビリティ) に伴い国内外の高等教育機関に必要とされる情報提供事業の在り方に関する調査 (報告書)』
<https://niadqe.jp/wp/wp-content/uploads/2018/02/f001-1603-mobility.pdf> (2022年2月17日).
- 江淵一公 (1990). 「留学生受入れと大学の国際化—全国大学における留学生受入れと教育に関する調査報告」『広島大学大学教育研究センター大学論集』21-26.
- 堀内喜代美 (2018). 「英語プログラムと留学生受入れ姿勢の関係性—入試要項から見える傾向とアンビバレンス—」『留学交流』
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2018/_icsFiles/afielddfile/2021/02/18/201806horiuchikiyomi.pdf (2022年12月5日).
- 文部科学省 (2008). 『「留学生 30 万人計画」骨子』
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/_icsFiles/afielddfile/2019/09/18/1420758_001.pdf (2022年12月5日).
- 文部科学省 (2017). 「高等教育機関における外国人留学生の受入推進に関する有識者会議報告」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afielddfile/2017/08/21/1394116_002.pdf (2022年12月5日).
- 文部科学省 (2021). 「令和元年度の大学における教育内容等の改革状況について (概要)」文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室
https://www.mext.go.jp/content/20211104-mxt_daigakuc03-000018152_1.pdf (2022年11月22日).
- 日本学生支援機構 (2021年5月). “University Degree Courses Offered in English”
https://www.studyin-japan.go.jp/en/_mt/2021/07/Degree_courses_in_english_2021.pdf (2022年3月17日).
- 翁文静・立脇洋介 (2021). 「募集要項から見る留学生受け入れの現状—国立大学4月入試を中心に—」『大学入試研究ジャーナル』31, 105-110.
- 翁文静・立脇洋介 (2022). 「国立大学における新型コロナウイルス感染症の対応について—2021年度私費外国人留学生選抜 (4月入学) をを中心に—」『大学入試研究ジャーナル』32, 114

-121.

太田浩 (2008). 「外国成績・資格評価 (Foreign Credential Evaluation) システムと留学生の入学審査」『留学交流』**20(8)**, 2-5.

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/18248/0100918801.pdf>

(2022年11月22日).

嶋内佐絵 (2016). 『東アジアにおける留学生移動のパラダイム転換—大学国際化と「英語プログラム」の日韓比較』, 東信堂